

**戦争法案廃案!安倍政権退陣!**  
**8・30国会10万人**  
**全国100万人大行動**  
 この日、私たちが、  
**戦争しない未来を作る。**  
**8月30日**  
**14:00~20:00**  
 国会議事堂周辺

# 国会周辺で長崎・佐世保・諫早・大村・島原・平戸で戦争法案廃案!安倍政権退陣!教職員・若者・年金者・子連れの家族が声を挙げた

# 長崎高教組新聞

発行  
 〒850-0013 長崎市中央2丁目2番5号  
 長崎高教組会館  
 長崎高等学校教職員組合  
 ☎ (095)-827-5882  
 FAX (095)-826-2976  
 編集責任者 小田 誠  
 購読料 一部10円  
 組合員は組合費に含む  
 メールアドレス  
 naga-kks@fsinet.or.jp

## 戦争法案止める!12万人の国会包囲

本部書記長 馬場 隆



8・30国会10万人行動には、長崎高教組から大村定時分会の古川さんと本部書記長の馬場が参加しました。集会が始まる2時ごろに地下鉄有楽町線の永田町駅に着きました。改札を過ぎて地上の出口まで長蛇の列でした。出口を出た後も歩道にはずいっと人の列。車道まで参加者で埋め尽くされた国会正門前(右の写真、左の地図の☆)方面は、すでに警察が通行を禁止しており、「立ち止まらずに先まで行ってください」

「戦争法案反対」の声をあげていることを実感し、長崎県内でも声をあげる人をもっと増やさなければならぬと決意をあらたにしました。

「誘導に従って」といって誘導に従ってたどり着いた先は国会図書館裏の通りでした(地図の場所)。そこまですいっと人の列が続いてたわけですから、参加者の多さを想像してもえらると思います。宣伝カーの近くで様々な人のアピールを聞き、シブプレヒコールに参加しましたが、その間も歩道はプラカード等を持って歩く人が途切れることがありませんでした。その中でも、若い人や子どもを連れた家族連れが多かったことが印象的でした。本当に幅広い年齢層の様々な職業・社会的地位の人たちが集まって、「戦争法案反対」の声をあげていることを実感し、長崎県内でも声をあげる人をもっと増やさなければならぬと決意をあらたにしました。

「8・30全国100万人大行動」は長崎県内の8カ所で取り組まれました。高教組からは38分会から、55人が参加しました。

親子で参加した若い主婦の方やNIDOVE、大橋前で宣伝行動

懐かしい高教組の先輩長嶋正彦さんが事務局長を務める平戸九条の会の主催で、宣伝行動を30人と犬1匹で賑やかに実施しました。北松支部から1人が参加しました。

「戦争する国づくり」に反対する市民の会の主催で、14時より京町公園での開会集会、四ヶ町アーケードデモ行進、松浦公園での集結集会を行い、150人を超える参加者がありました。高教組は6人が参加しました。

「若者を戦場に送るな!」と、週末で賑わう買い物客や道行く観光客にアピールしました。新学期の体育大会や文化祭の準備で忙しい中、長崎支部から13人が参加しました。

「若者を戦場に送るな! 誓い新たに」

「戦争する国づくり」に反対する市民の会の主催で、14時より京町公園での開会集会、四ヶ町アーケードデモ行進、松浦公園での集結集会を行い、150人を超える参加者がありました。高教組は6人が参加しました。

「若者を戦場に送るな!」と、週末で賑わう買い物客や道行く観光客にアピールしました。新学期の体育大会や文化祭の準備で忙しい中、長崎支部から13人が参加しました。

「若者を戦場に送るな! 誓い新たに」

# 「みんなで21世紀の未来をひらく 教育のつどい2015」

## ～戦後70年、手をつなごう、子どもたちに平和な未来を手わたすために～

2015「教育のつどい」in 宮城



1450人が参加した開会全体集会

8月16日から18日にかけて仙台市において「教育のつどい」が開催されました。今年度の「つどい」は開会全体集会参加者約1450人、3日通しての参加者が6000人でした。

### 3・11被災地の状況

全国ニュースでは、被災地での建物の完成や前向きなとりくみが紹介されています。しかし、工事現場は多いけれど、人々が生活している姿が全く見られません。生活基盤の整備はまだです。住民は住み慣れた土地に戻れず、また仮設住宅で我慢の生活が続いています。集落そのものが無くなって、町の本屋では復興作業のトラックには「つながり」「きずな」の字が消え、「東京オリンピック」が書かれています。

宮城県教職員組合が震災の半年後に公立小中学校の教職員を対象に実施したアンケートの結果、被災した教職員の3割が中度・軽度のうつ傾向であることが明らかとなりました。教委職員も子どもたちも大きなストレスをかかえています。しかしながら、「創造的復興」は、生産性が必ずしも高くない地域や、住民が望む福祉や教育を見捨てて、巨大防波堤や町を一変させるような開発に巨額の資金を投入しています。もうマイナスイメージを与える「被災地」という言葉をやめて「復興エリア」と呼ぼうというムードさえあります。

宮城県教職員組合が震災の半年後に公立小中学校の教職員を対象に実施したアンケートの結果、被災した教職員の3割が中度・軽度のうつ傾向であることが明らかとなりました。教委職員も子どもたちも大きなストレスをかかえています。しかしながら、「創造的復興」は、生産性が必ずしも高くない地域や、住民が望む福祉や教育を見捨てて、巨大防波堤や町を一変させるような開発に巨額の資金を投入しています。もうマイナスイメージを与える「被災地」という言葉をやめて「復興エリア」と呼ぼうというムードさえあります。

### 被災地での開催の意義

このような「被災地」の現状や住民、教職員、子どもたちの生活を考えるとき、被災地・宮城で子どもたちのための教育について討論し、実践に向けた考え方や方法を検討できることは、計り知れない意義があると考えます。

4月の全国教文部長会ではこの被災地での開催の意義を確認するとともに、全国からレポーター以外の一般参加者を各組織で募ることも併せて確認し、6月の定期大会での呼びかけに田中真二さん(佐商分会)、溝上貴穂さん(佐北分会)、鈴木木琢也さん(猶興館分会)の3人が応じ参加しました(レポーター等は別記)。田中さんと溝上さんは最終日、被災地・石巻市のフィールドワークにも参加しました。佐世保支部、北松支部、各分会においては、3人の方を交えての漂流・報告集会等の開催を積極的に行うと決まっています。

開会集会では、地元宮城の演劇部OBの教職員有志が劇を上演しました。特攻の悲劇と生き残った者の苦悩が伝わり、改めて戦争について考える機会となりました。金平茂紀さん記念講演 TBS報道特集キャスターの金平さんが2つのテーマで講演しました。一つ目は、「3・11で戦後の生き方を振り返る」「忘却と慣性」を提起し、日本が3・11以前に戻つたことを強調しました。優越思想と排外主義(ヘイトスピーチ)、反知性主義と歴史修正主義、知性の劣化。知性や教養を馬鹿にし、逆に「マッチョ(勢いがいい)」「ヤンキー(のりがいい)」を支持する若者の風潮を述べ、日本が世界の中でも、若者文化においても危険な方向に進んでいることを指摘しました。

開会集会では、地元宮城の演劇部OBの教職員有志が劇を上演しました。特攻の悲劇と生き残った者の苦悩が伝わり、改めて戦争について考える機会となりました。金平茂紀さん記念講演 TBS報道特集キャスターの金平さんが2つのテーマで講演しました。一つ目は、「3・11で戦後の生き方を振り返る」「忘却と慣性」を提起し、日本が3・11以前に戻つたことを強調しました。優越思想と排外主義(ヘイトスピーチ)、反知性主義と歴史修正主義、知性の劣化。知性や教養を馬鹿にし、逆に「マッチョ(勢いがいい)」「ヤンキー(のりがいい)」を支持する若者の風潮を述べ、日本が世界の中でも、若者文化においても危険な方向に進んでいることを指摘しました。

### 現地を直接目にし、モヤモヤは晴れた

お盆の時期と重なり、仙台空港行きがとれず、思案の末に羽田空港経由で行くことにしました。15日、晴れ。夕方諫早博多着。博多で一泊。博多の宿は外国人で賑わっていた。

16日、晴れ。早朝福岡空港へ。7時前にも関わらず空港は大盛況。8時に福岡空港を発ち11時前に羽田着。京急、JRを乗り継ぎ東京駅へ。仙台行きの切符を手配し、直近のこまちに駆け込み乗車。13時ころ仙台に到着。

今回初めて教育のつどいに参加させて頂いた。開催地が仙台ということを知り、震災後の復興の状況を知る絶好の機会と考えた。震災発生当時、放送室の映像を見た時の衝撃は今でも忘れられない。生徒たちも「何かしなければ」という思いに駆られ、生徒会を中心に募金活動を行い、佐世保市を通して被災地に基金を送った。※この後、2日目までは「長崎の高校教育」に掲載【フィールドワーク(3日目)の参加報告】

東松島市から海岸線を上しながら津波が襲った現場の「今」を確認することができた。ガイドは石巻市在住で元宮城高教組委員長の高橋秀氏。菊池氏自身も尊い教え子の命を奪われた被災者

### 門脇小学校の奇跡は、歴史の継承のため

最終目的地である門脇小学校に到着し、当日の子どもたちの避難ルートを確認した。子どもたちが夜を明かした校舎裏山の「日和山」周辺はすべて浸水し、浮き島になった。門脇小学校は、いくつもの奇跡が起こった。

一つは、震災発生時に校舎内にいた児童全員が助かったこと。門脇小学校の校長は防災に対する意識が高く、震災発生1ヶ月前にも避難訓練を行ったばかりだった。避難したルートは1ヶ月前に迎った道であり、下級生の児童たちも上級生に手を引かれ、大きな混乱



なぜ校長の防災意識は高かったのか。実際に標高60mの日和山に登ってみると、郷土の歴史を伝える様々な碑が建てられている。日和山自体が中世の山城跡であった。中世の山城は、非常事態のための避難場所でもあった。三陸海岸は1960年におきたチリ地震でも津波の被害を受け、そのことを伝える記念碑もあつた。歴史の継承がなされているのか否か、いざという時の生死の明暗を分けたのだ。

### 方で、10数年前私は仙台からJRで石巻に入つており、バスから降りたのは全く初めての景色だった。当時の記憶と比較することができず残念。

18日、晴れ。特設分科会「東日本大震災からの復興をめざして」のフィールドワークに参加。今回最も期待した分科会。佐北の溝上先生と一緒に石巻に行き、現地を直接目に納めたことで心のモヤモヤが解消されたことは事実である。それが、自分自身がある程度歳をとり、驚くことが少なくなっていることが一つの理由かもしれない。しかし、実際に仙台に行き、石巻に行き、現地を直接目に納めたことで心のモヤモヤが解消されたことは事実である。

現在、高校2年生で、私は学校に戻つて早速被災地を訪問したことを授業の中で伝えている。現在、門脇小学校の校舎には覆いかぶせられており、中を見学することはできない。廃校となつたこの校舎を保存すべきか壊すべきか、未だに結論は出ていない。それについては住民たちが十分に議論を尽くしていくべきである。しかし、海岸線にそびえる防潮堤の建設については、議論が尽くされていることがないまま進められている。

今回、「教育のつどい」に参加して本当に良かった。現地を訪れたからこそ分かることが沢山ある。教壇に立つ者の使命の一つとして、アンテナを広げていきたい。